

	<h1>みずみどり</h1>	<p>2002年1月15日 第28号</p>
		<p>発行：いたばし水と緑の会 事務局</p>
		<p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 ホームページ http://www.ne.jp/asahi/nature/land/index.htm E-mail : mizumidori@nifty.com</p>
		<p>〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124</p>

新年会のお知らせ

皆様明けましておめでとうございます。いろいろな感想や、抱負を抱いて新年をお迎えのことと思います。

「水と緑の会」恒例の新年会のお知らせです。新年会も5回目を迎えます。いつも参加できない方も、この日はぜひ！！

今年は、最初に釣巻さんに〔昆虫の話〕をしていただきます。昨年の11月の会報でも書きましたが、冬に死んだ虫を見つけた方は是非お持ちください。アシナガバチの巣を持ってきてくださる方もお願いします。意外な発見があるかもしれません。

1 日時：1月27日（日）1時30分～4時30分

2 場所：エコポリスセンター（前野出張所）にある前野いこいの家

（志村坂上下車徒歩15分、ときわ台駅北口下車徒歩15分、ときわ台駅北口から赤羽駅西口行きバスに乗って前野小学校下車徒歩2分）

3 会費：1000円

4 持ち物：名札（あなたの名前を知らない人のために忘れずに。ない人は当日用意します。）
箸（割り箸は使わないようにしましょう）、

5 その他：お手伝いして下さる方は、瀬田まで連絡下さい。（3969-7124）



赤塚自然池の冬の準備

水と緑の会の2001年最後となる”赤塚自然池の冬の準備”を12月16日(日)に行いました。この日は晴れて絶好の清掃日和となり、10名ほどが参加しました。

赤塚自然池の冬の準備として、自然池へ流れ込んでいる湧水の水路と池の周りの清掃、ついでにザリガニの捕獲を行いました。

水路は美術館の脇を通り、池の上流につながり、下流より水路に戻り、泥だめを通して溜池に通じています。水路の清掃と言ってもスコップで泥さらいをするのではなく、落ち葉を水路の脇に寄せて湧水が流れやすくするのが目的です。水路に溜まっている落ち葉を岸に上げないのは、落ち葉のなかに水生昆虫などがいるかもしれないので、水際に寄せておくのだそうです。

水路の落ち葉寄せをやっているとヘビトンボの幼虫(7~8cm位)が見つかりました。トンボの幼虫といえばヤゴだと思っていましたが、姿(写真)は全く違い、ましてや水路にいるとは思っていませんでした。幼虫は参加者が観察して写真撮影の後に水路に戻してあげました。

*ヘビトンボ:脈翅(ミヤクシ)目ヘビトンボ科の昆虫。日本全土、中国、台湾、朝鮮、に分布し、体長40mm、開長100mm内外。体は暗黄色、翅は暗灰色。半透明で数個の不明瞭な円形黄色紋がある。幼虫は流水の小石の下などにすみ、他の昆虫を捕食する。成虫は6~8月に現れ、灯火によくくる。幼虫はマゴタロウムシ(孫太郎虫)と呼ばれている(ヤマトクロスジヘビトンボでした。釣巻)



しばらく経ってから水路脇の落ち葉をかき集めている時に、廃材を積んである場所で、カブトムシ?の幼虫を見つけました。幼虫は釣巻さんが持ち帰り、成虫(カブトムシ?)まで飼育して赤塚の森に返してくれるでしょう。

池の周りは枯れ葉払いなど簡単な清掃をしました。

池の排水口に20cmほどのミドリガメを見つけ、捕獲しました。ザリガニは水路や泥だめの中から34匹見つかリ、相変わらず繁殖していました。

この日感じたことは、人の手をあまりかけずにおけば昆虫などは育っていくのではないのでしょうか。今年の夏、ヘビトンボやカブトムシが飛び立つのが楽しみです(植田 隆夫)



徳丸が原公園自然池から自然拡張の好機会!!

…みんなで意見を出し合い、区に要望していきましょう…

徳丸が原公園内に、いたばし水と緑の会と、平成11年の自然回復ボランティア講座活動の一環としてつくられた自然池があります。現在、水と緑の会により補修・維持が続けられてきていますが、この池横の橋をはさんで反対側、ススキが生えている広場から水路にかけて、保育園の仮園舎が建てられることになりました。

徳丸が原公園に近い、高島平駅北口にある区立高島平くるみ保育園の改修工事が行われるためです。仮園舎の工事は、平成14年6、7月に行われ、くるみ保育園の改修工事が終わる平成15年3月頃まで利用されると思われます。具体的なことは施工要領が不明でわかりませんが、水路のところは基礎工事のため、撤去されるか埋められると思います。仮使用が終わった後、水路の部分も復元されますが、このとき現状と同じに復元するのではなく、現在の自然池と一体化したピオトープとしてもらいたいと思います。そうすることで現在グラウンドの方に抜ける通路（橋）がピオトープの中央の位置となり、生き物を観察するのもよい場所になってくると思います。

自然池は、今の形で維持していき、下流側（流れ）を浅い沼地状態にし、ヤゴやドジョウや、ザリガニなどが共存できるような植物が茂り、子供達が沼地には行ってザリガニを捕ったりして遊べる場所ができれば、現在の自然池が発展したピオトープができて、子供達も生き物に積極的に接することができ、生き物の多様性も期待できると思うのです。

これらはあくまでも私の考えですが、仮園舎の計画が進んでいる現在、自然池をつくった経験を生かすべく早い機会に、会員の皆様、池づくりに参加したボランティアの皆様と話し合いをして、少しでも私たちの思いを伝えていきたいと思います（大西 優）。

ウォーキングコースの落ち葉観察会とゴミ拾い

準備した自然発見ウォーキングは、あいにくの雨となり、室内の工作が中心になってしまいました。そこで、11月25日（日）は秋晴れの下、準備したオススメコースを一周する散歩観察会となりました。よいコースなのに散乱ゴミが気になっていたのも、ゴミ袋を持ちながら清掃も兼ねた散歩となりました。目立ったのは犬の糞、人の糞（一応ちり紙の有無で判断）。自然の環境ではいずれ分解すると言う理屈でしょうか。自然のバランスを超える糞量です。ごていねいにポリ袋に入った犬の糞も竹藪にはいくつか捨ててありました。道路でも、両側が公園や空き地で住宅がないところはゴミが多く、ゴミが多い場所は、さらにゴミを捨てられやすいといった悪循環に陥っています。

それでも暖かく穏やかな小春日和、赤や黄色に色づいた落ち葉を見たり拾ったり。この季節の落ち葉観察会もなかなかのものでした。

冬の夜に飛ぶ蛾

わざわざ寒い冬に、しかも夜に林の中を飛び回っている昆虫たちがいる。昆虫は変温動物、だから寒い冬の夜に飛びまわれる訳がない。なんて理屈を言われても困る、ほんとに飛んでいるのである。ただし寒い冬に、しかも夜の林の中に行かなくては、この虫たちには会えない。ユウレイがこわい、お化けがこわいなど言っていない。ただし生きた人間に会ったら少し用心したほうがいいかもしれない。

フユシャクとキリガ

ユウレイも、お化けも、寒い冬の夜の林もごめんだという人のために、少し彼、彼女らを紹介しよう。

彼らの正体は蛾である。蛾もいろいろだが、大きくわけて二つのグループが冬にみられる。シャクガの仲間のフユシャクとヤガのグループのキリガである。

シャクガ類は胴体が細くて羽が広く、ヒラヒラ飛ぶものが多い、幼虫はもちろんシャクトリムシである。フユシャクもそのとおりだ。たまには昼間飛んでいることもある。雑木林の中に小さな紙切れがフワフワ舞っていたらフユシャクの雄かもしれない。木の幹にとまっていることもあるので、雑木林を散歩する時にクヌギやコナラの幹に注目していると、会えるかもしれない。

雌も木の幹にとまっている、ただし多分見つからないであろうが。なぜかというと、雌には羽がないのである、あっても小さく退化している。たとえ見つけても蛾だとはわからないであろう。クモか、ぶかっこなアリ、とにかく変な虫、ぐらいな所だろう。もう一つ変っているのは口が無いことである。雄も雌も蛾になってしまったら、飲み食いとは無縁になる、幼虫の時の食いだめで2、3週間生きていたのである。

一方キリガは胴体が太くて羽の幅がせまい(スズメガほどではないが)ヤガの仲間である。日没後の薄暗闇に素早く林の中を飛んでいる。さぞやエネルギーを使っていることであろう。やはり彼らは幼虫時代の食いだめでは足りなく、樹液や冬に咲く花に来てエネルギーを補給しているのである。晩秋に土中の蛹から羽化して、長生きする種では早春まで生きている。

キリガ類は昼間は落ち葉の裏などに隠れ、夜は蛾のくせに灯かりにもほとんど来ない。彼らを見るためには特別なしかけがいる。人工の樹液(糖蜜)を作り、木の幹に塗り、日が暮れるのを待つのである。懐中電灯に照らされると彼らの目が赤く輝く、少し遠くからでも案外目立つ。はじめて見た人はこんなに蛾が寒いなか活躍している、と驚くであろう。

赤塚の森にいるフユシャクとキリガ

おととしの暮れに皇居の生物調査報告書が発行された。フユシャクが7種、晩秋のキリガ類が13種も記録されていたのには私も驚いた。赤塚の森でも同じぐらいいるはずだ、糖蜜採集はめんどくさいがやらずばなるまい。12月のはなからはじめて、キリガ類は10種、フユシャクは以前に私が採集していたものを含め、8種が記録できた。まずまずの成果であろう。

皇居には多産する照葉樹林性のナワキリガがまだ見つからない、代わりに皇居にはいない落葉樹林性のフサヒゲオビキリガが割合多い。これが赤塚の森の特徴、まだ雑木林の面影がやや色濃く残って居るということだろう。フユシャクではクロバネフシャクが多いのが目立つ。東京周辺の雑木林の特産種、世界でここだけである。

(釣巻岳人)

「土を移動させない」という荒川の方針

昨年秋の鳴く虫観察会で荒川に行きました。カンタンやハバヒロカンタン、オケラ等々、自然に出会えたうれしい一夜でした。

さて、荒川下流工事事務所の「荒川の土を外に運び出さない、外から土を運び込まない」という原則をご存じですか。土を移動させると土と一緒にその土地の植物や動物もついて運ばれ、よその地域の生き物が繁殖するといったことがしばしばあります。「土を移動させない」原則により動植物種の攪乱を避けることができます。こういうことを配慮する時代になったのですね。

以前は荒川に水たまりも多かったのですが、川さらえをした泥を盛ったり、グラウンド整備（雨の後でも使用できるようにかさ上げする）によって、全体に乾燥しつつあります。そこで池を掘って自然地整備をすることになるのですが、公園課は出た土の搬入先で苦勞しています。

今回、残土置き場として候補にあがっているのは、荒川笹目橋の大規模自然地に予定されているところで、ここは戸田市です。荒川が蛇行していたころの境界が残っているため、戸田市にとっては死んだ土地です。実質上利用できる板橋区はこの自然整備まで手がまわらないのが実状です。それならば野球場として占用させろという声も非常に強いようですが、ありがたいことに荒川下流工事事務所はグラウンドの占用許可を出していません。それにもめげず、自主的に草刈り・整地して野球をしています。体育会系のパワーはすごい！

ここが残土置き場になると、野球をしたい人達には申し訳ないのですが、乾いた草原という自然地ができ、歓迎してよいように思います。盛った土は、後日（早い時期に）新たに整備するグラウンドの盛り土用などに使ってもらえば、ミズアオイの自生する湿地が出現するのでは・・・

いたばし水と緑の会では、平成12年6月、この地に「ここは、大規模自然地ゾーンです」の看板を立てました。荒川下流工事事務所にお願ひし、河川環境管理財団の助成金で立てたものです。看板を立てさせてもらった会の責任もあり、笹目橋緑地の動向を見守っていきたいと思います。

話は飛びますが、荒川将来像計画のなかで、河川敷は、スポーツ施設、広場、自然地にゾーニングされています。水際部はヨシなどが生える自然地と位置付けられていますが、このヤブにホームレスの人たちの家が点々とあり、犬が相当数いて近づきたいゾーンとなっています。自然地はあくまでも放っておけばいいのか、いろいろむずかしい問題があります（坂本 郁子）。

活動のお知らせ

●運営委員会は毎月第1金曜日です。興味のある方はぜひご参加ください。

2月運営委員会 2月1日(金)18:30~20:30 エコポリスセンター

3月運営委員会 3月1日(金)18:30~20:30 エコポリスセンター

●会報の印刷・発送は奇数月の15日。お手伝いできる方は応援よろしく

日時：3月15日(金)17:30~ 場所：エコポリスセンター

● 新年会 (表紙を参照)

日時：1月27日(日)13:30~

場所：エコポリスセンター

● 梅まつりのための清掃と観察

池の周りも少しきれいにして、枯れ野の美しさをアピールします。

日時：2月17日(日)10:00~12:00

場所：赤塚自然池(美術館前)

● 梅まつり

毎年、梅まつりのときに自然池の門を開け、またパネル展示などで紹介をしています。昨年は冬眠からさめて卵を産みに池にきたカエルが歓迎してくれました。また工作コーナーを設けましたが自作は少なく、会員が竹の花入れをつくって販売しました。今回は、子供達にノコギリ体験をしてもらうために、木を使って鍋敷きとペンダントづくりをします。どちらも参加者が自分で木を薄く輪切りにしたものを使います。応援お願いします。

日時：3月2日(土)10:00~15:30

3月3日(日)10:00~15:30

集合場所：赤塚自然池(美術館前)

● ゴマダラチョウの調査

ゴマダラチョウの幼虫はエノキの枯葉にくっついて越冬します。だから落ち葉を片づけてしまうと生きられません。枯葉を1枚1枚めくって探します。やり方を覚え公園でもやってみよう。

日時：2月16日(土)13:30~15:30

場所：安養院(東新町2-30)

連絡先：環境保全課(3579)2598 FAX(3579)2589

● 環境保全課からのごあんない「自然回復ボランティア活動講座」

テーマは「崖線の自然を守るため」です。くわしくは、広報いたばし18日号をごらんください。

第1回は1月25日(金)18:30~20:30「自然って何」講師は三島次郎先生です。